

SNSによる 
社会への
発信 を考えよう
ネットのリスクから
自分を守る方法は？

講師用ガイドブック

SNSによる社会への発信を考えよう

ネットのリスクから自分を守る方法は？

講師用ガイドブック

CONTENTS

03 はじめに／メッセージ

和歌山県警察本部
和歌山県教育委員会
一般財団法人LINEみらい財団
常葉大学教育学部 講師 酒井郷平

04 この教材について

05 授業の流れ

06 授業の流れ（詳細）

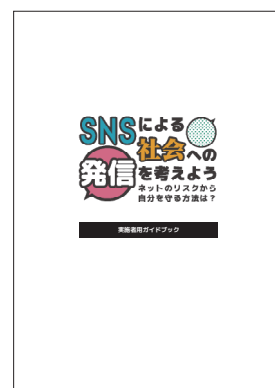
この教材の内容



スライドデータ



ワークシート



講師用ガイドブック

はじめに

内閣府（2022）の調査では、スマートフォンでインターネットを利用していると回答した青少年のうち、インターネットの利用内容として76.0%が「投稿やメッセージ交換をする」と回答しています。このことから、子どもたちにとって、インターネット上での情報発信が身近になっていることがわかります。また、SNS利用により発信された情報から知らない人との出会いにつながるケースもあります。インターネットやSNSを通じた情報発信は、対面での情報発信とは異なる性質を持つ一方で、様々なリスクをはらんでいることが懸念されます。

こうした課題に対して、私たちはトラブルの危険性を伝えることだけに留まらず、ワークを通じて子どもたちに主

体的に情報発信のリスクを考慮してもらうための教材を開発しました。この教材では、特にSNSでの情報発信に関するネットの特性や刑事罰になる場合の法的知識の理解を内容として取り入れ、SNS利用に起因した子どもたちのトラブル被害を防ぐことに主眼をおいています。和歌山県の条例や実際のトラブル事例なども取り入れておりますので、ぜひ学級やクラスでトラブルへの対応方法を考えてみてください。

ぜひ本教材をご活用いただき、子どもたちのネット・コミュニケーション・リテラシーの育成にお役立ていただければ幸いです。

メッセージ

和歌山県警察本部

近年、スマートフォンの普及とともにSNSは身近な存在となっており、青少年にとっても友人とのコミュニケーションや広く社会に情報を発信するためのツールとなっています。

その一方で、青少年がだまされるなどして自分の裸体を撮影した写真を送信させられるといった「自画撮り被害」にあうことや、反対に友人にそうした写真を送らせて加害者になってしまうなどの問題が発生しています。

本教材を広く多くの方々に活用いただくことで、そうしたSNS利用に起因する青少年の被害を防ぎ、青少年にとってのより良い社会づくりにつながることを願っています。

一般財団法人LINEみらい財団

SNSは便利な反面、使い方を誤ると思わぬトラブルに巻き込まれたり、自分や他人を傷つけてしまうこともあります。

また関連するトラブルの多くは誰にでも起こりえますが、自分事として考えることは難しいものです。

本教材では、生徒たちが身近な事例をベースに、話し合いを通じて主体的に学びを重視したものになっており、より適切なSNSとの関わり方を自分事として考えられるようになっていきます。

基本的な知識や指導ポイントなどについてまとめた「講師用ガイドブック」もあわせて展開していますので、情報モラル教育の推進に向け、各地域や学校において積極的に活用いただけますと幸いです。

和歌山県教育委員会

加速度的に進むこれからの情報社会を生きる子供たちにとって、情報モラル教育は、さらに重要度が増していきます。

本教材では、SNSに関するトラブルを回避する力を身に付けるために、3つの活用のポイントをまとめています。授業を行う際には、これらに加えて、「自分事として捉えさせること」、「話し合いを通じて、自らの意思決定を行えるようにすること」なども大切です。各教科等や生徒指導との連携も図りながら、情報モラル教育を充実させていただきますようお願いします。

常葉大学教育学部 講師 酒井郷平

GIGAスクール構想により、学校で1人1台端末が導入されたように、子どもたちにとって情報端末の活用は、社会を生きるための一つの重要なスキルになりつつあります。その一方で、SNS利用に関するトラブルも多く報告されており、特にSNSでの情報発信については、学校現場でも指導に苦勞されているという声も耳にします。

今回の教材を通じて、子どもたちがトラブルをより自覚的に捉え、対応方法を身につけることの一助になればと願っております。

プロフィール：静岡大学大学院博士課程修了、博士（教育学）。東洋英和女学院大学助教、講師を経て現職。専門は、教育工学、情報教育、授業デザイン。情報モラル教育を中心に、「現代的な課題」に関する教材開発や調査研究について工学的に研究している。主な著書に、『行動改善を目指した情報モラル教育—ネット依存傾向の予防・改善—』（2018）などがある。

この教材について

この教材のねらいと活用ポイント

本教材は、子どもたちがSNSを利用する際のリスクを想像し、トラブルを回避できるような力をみにつけることをねらいとしています。そのために、大きく3つのポイントがあります。

ポイント① 「ネットの特性」を理解し、情報発信の際のリスクに気づかせる

SNSを利用する際には、「ネットの特性」により対面的なコミュニケーションと異なる性質を踏まえて、リスクを考える必要があります。「相手のウソを見抜きにくい」、「行動が大胆になりやすい」といったネットの特性を理解しながら、情報発信の際のリスクを想像することを学びます。

ポイント② 自撮り写真の発信に関する「法的知識」を学び、被害者や加害者になることを予防

SNSで情報発信をする際には、法律を遵守することが重要ですが、法的知識を理解していないまま、知らず知らずのうちに破ってしまうということも考えられます。そこで、刑事罰となる事例を学ぶことで、被害として通報できる基準や自分が加害者にならないための基準を学びます。

ポイント③ リスクを低減するために周囲へ「相談」する基準や方法を焦点化

SNSを使っていく中で、リスクをゼロにすることは難しく、様々な対応方法を考えておく必要があります。その際、誰かに相談をすることも重要になりますが、いざ相談するとなると誰に、どのタイミングで相談すればよいのかの判断が難しくなります。そこで、身の回りの人に相談することのメリットや警察に相談する場合の基準を明確にし、トラブル対応への選択肢を増やすことにつなげます。

授業の設定

- 推奨学年 中学生～高校生
- 実施時間 50分（一部、内容の省略により短縮可）

準備するもの

スライドデータ
パソコン、プロジェクタ・スクリーン
ワークシート※ 1人1枚（両面印刷の場合）
講師用ガイドブック

※ワークシートは裏面にまとめの記載が有り無しとの2パターンあります。


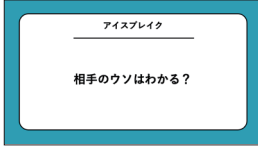





※ワークシートはPDFを使用することでタブレット端末でも使用可能です。

授業の流れ


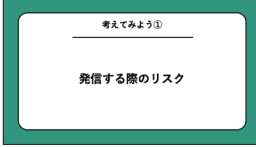




時間	学習活動	準備物等
10分	1. 導入・アイスブレイク ・ ネットでは相手のウソが見抜きにくいという特性がある。	<input type="radio"/> パソコン <input type="radio"/> スライドデータ
10分	2. 考えてみよう① 発信する際のリスク ・ 事例で考えてみよう。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> ゆうなさんがどんな写真を発信するとリスクがあるでしょうか？ </div> ・ 顔がわからなければ大丈夫？ （発信した情報から何がわかるかを考える必要がある） ・ 掲示板と SNS では何が違う？ （簡単に発信できる、多くの人が見ていることに気づきにくい）	<input type="radio"/> スライドデータ <input type="radio"/> ワークシート
10分	3. 考えてみよう② 犯罪のリスクの判断 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> 罪に問われるもの、罪に問われないものを判断できるかな？ </div> ・ SNS での情報発信において、悪質なものは罪に問われる可能性がある。 ・ 法律や県の条例を確認する。	<input type="radio"/> スライドデータ <input type="radio"/> ワークシート
15分	4. 考えてみよう③ 写真を要求されたら？ ・ 事例で考えてみよう。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> 雑誌の記者から、水着の写真を要求されたら、どのように返信するかな？ </div> ・ 記入した内容をグループで共有する ・ 法律的に大丈夫な写真であっても、脅しの道具として使われる可能性がある ・ 対応方法は、「きっぱりと断り、相談すること」 ・ 「下着」や「裸」の写真を要求されたら、警察に相談する	<input type="radio"/> スライドデータ <input type="radio"/> ワークシート
5分	5. まとめ ・ ネットでは特に相手の嘘を見抜くことが難しい ・ 絶対安全は難しいため、状況によるリスクの変化を判断する必要がある ・ どこからが犯罪になるかを判断することが大切 ・ 脅しの道具として使われないためにも、写真を要求されたらきっぱりと断り、相談することが重要	<input type="radio"/> スライドデータ

授業の流れ（詳細）

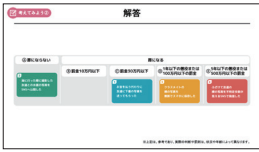
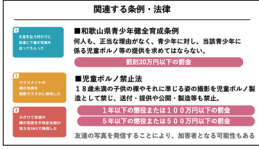

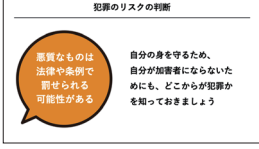
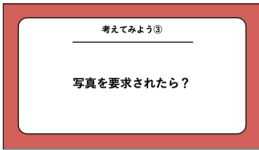


※「▲省略可」の記載があるスライドについては、授業進行の目的や時間に応じて省略が可能になる箇所です。

時間	学習活動	台本	スライド・番号	○準備物 ■教師の支援
10分	1. 導入・アイスブレイク ネットでは相手のウソが見抜きにくいという特性がある。	これから授業を始めます。 今日の授業では、SNSによる社会への発信について考えてみましょう。様々なリスクと上手に向き合っていくためにはどうすればよいでしょうか？	1 	○ パソコン ○ スライドデータ
		はじめに、アイスブレイクとして簡単なゲームをしてみたいと思います。グループになってください。	2 	■生徒を 3、4 人程度のグループにする
		ルールを説明します。 まず、グループの中でじゃんけんをして、1人リーダーを決めてください。リーダーの人は手を挙げてください。	3 	■各グループ1名ずつリーダーを決める ■各グループリーダーが決まったかを挙手により確認する
		リーダーは、1分間で「昨日の出来事」を話してください。 話す内容は、特に何でも構いません。	4 	
		ただし、話をする中で1つだけ、どこかにウソをいれてください。 例えば、塾に行った時間や本当はやっていないことを入れても構いません。	5 	
		メンバーはリーダーの話を聴きながら、どこにウソがあるかを予想してください。 このとき、話の内容だけではなく、相手の表情や目線なども観察してみてください。 途中で質問をすることはできません。	6 	
		それでは、こちらのタイマーで時間を測ります。用意、スタート。 (※1分経ったら) それでは、リーダー以外のメンバーは、どこが嘘だと思うか、1人1つずつ答えてください。 (※メンバーが1か所ずつ、予想した個所を解答する。)	7 	■スライド7のタイマーをスタートし、1分測る。



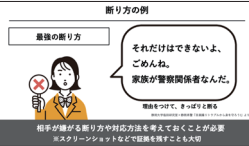
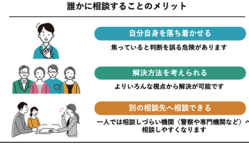
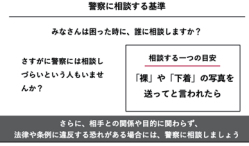
時間	学習活動	台本	スライド・番号	○準備物 ■教師の支援
		<p>全体の結果を見てみたいと思います。メンバーが嘘を見抜けたグループは手を挙げてください。</p> <p>(※生徒が手を挙げる。)</p> <p>メンバーが嘘を見抜けなかったグループは手を挙げてください。</p> <p>(※生徒が手を挙げる。)</p>		
		<p>今のアイスブレイクを通して、皆さんに考えてもらいたいことがあります。まず、人は相手の嘘を見抜こうとするときに内容だけではなく、相手の表情や声のトーンなどもヒントになることがあります。しかし、ネットや SNS では、これらの情報が制限されるため、相手の悪意やウソに気づきにくくなります。</p> <p>(※スマホの画面を提示)</p> <p>たとえば、このスマホの画面の中のどこに嘘がありそうでしょうか？もしかすると、ユウタという人がなりすましの可能性もあります。また、卒業生の連絡先を悪意を持って知ろうとしている可能性もあります。</p>	<p>8</p> 	→生徒に発表させても良い。
		<p>ネットを使う際の前提として、「相手の嘘や悪意を見抜くことが難しい」ということを知っておきましょう。特に、SNS では、相手の表情や声がみえないためヒントが少なくなってしまうです。</p>	<p>9</p> 	
		<p>今日の授業では、こうしたネットや SNS の特性を意識して、「SNS による社会への発信」について考えてみましょう。</p>	<p>10</p> 	
		<p>社会とは、「様々な立場の人と交流する場」のことです。例えば、学校・職場・地域があり、最近ではネット・SNS もこうした社会の一部になっています。</p>	<p>11</p> 	
		<p>SNS では、社会に向けて情報を発信できるサービスが増加しています。例えば、「特定の人のみ」に発信する SNS にはどのようなものがあるでしょうか？ (※生徒を指名して発表させる。)</p> <p>例) LINE、Twitter・Instagram のダイレクトメッセージ機能など</p>	<p>12</p> 	<p>■グループで考えさせる →生徒に発表させても良い。</p>


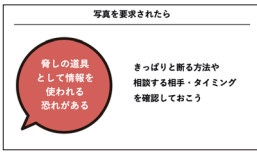
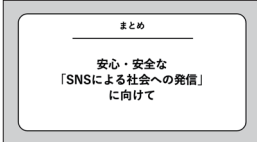
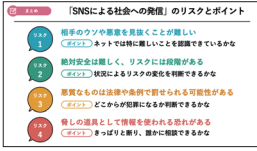
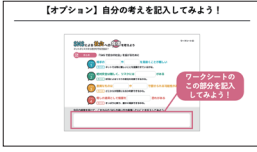
時間	学習活動	台本	スライド・番号	○準備物 ■教師の支援
		<p>「不特定多数」に発信する SNS にはどのようなものがあるでしょうか？ (生徒を指名して発表させる。) 例) Twitter、Instagram、TikTok など</p>		
		<p>皆さんも、これから暮らしの中で直接会ったり、ネット・SNS を通じて、様々な人と関わり合いながら「自分の社会」を広げていく必要があります。 その中で、リスク(危険性)も生じるため、これらからどのように自分を守るかが大切になります。 今日の授業では、この方法について、考えていきましょう。</p>	<p>13</p> 	
10分	<p>2. 考えてみよう① 発信する際のリスク</p> <p>事例で考えてみよう</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content;"> <p>ゆうなさんがどんな写真を発信するとリスクがあるでしょうか？</p> </div>	<p>それでは、「考えてみよう①発信する際のリスク」です。 この活動では、ストーリーを基に考えていきましょう。</p>	<p>14</p> 	
		<p>中学2年生のゆうなさんは、SNS で日常の出来事や気持ちを発信しています。 ゆうなさんのアカウントは、本名を出しておらず、匿名で登録しています。</p>	<p>15</p> 	
		<p>ゆうなさんは、先週の土曜日にカフェに行ったため、そのことを SNS で発信しようとしています。</p> <p>(※スライド内の内容を読み上げる。)</p>	<p>16</p> 	
		<p>(※スライド内の内容を読み上げる。)</p> <p>このとき、ゆうなさんのスマートフォンの写真のフォルダには、次のような写真が保存されていました。</p>	<p>17</p> 	
		<p>このとき、それぞれの写真を発信するときのリスクがどの程度あるか考え、ワークシートに記入してみましょう。 ×(リスクあり)をつけた人は何が問題になるのかも記入してみましょう。</p> <p>(※ワークシートに記入する)</p>	<p>18</p> 	<p>○ワークシート ■1～2分程度時間をとり、個人で考えさせる。</p> <p>■グループで記入した内容を共有する。</p> <p>→生徒に発表させても良い。</p>

時間	学習活動	台本	スライド・番号	○準備物 ■教師の支援
		<p>それでは、ポイントを考えていきましょう。自分の顔を出した写真については、名前を知られていないからといって、顔写真を公開しても大丈夫でしょうか。また、マスクをした写真やお店の写真についても、お店の風景や名前からよく行くお店として、見ている人に知られてしまうかもしれません。</p>	<p>19</p> 	
		<p>ネットの特性について考えてみましょう。大勢に向けて掲示板に情報を貼りだすことと、SNSで情報を拡散することはどちらも大勢に向けて情報を発信しています。この2つの特徴の違いにはどのようなものがあるでしょうか。</p>	<p>20</p> 	→生徒に発表させても良い。
		<p>例えば、SNSの特徴として、「多くの人に見られていることに気づきにくい」、「匿名でも個人情報につながるリスクがある」、「一部の反応だけが目につきやすい」、「手軽に情報を発信・拡散できてしまう」という特徴があります。こうしたことから、自分が「注目されている」、「ウケている」、「喜んでくれている」と感じてしまう人もいるため、大胆な行動を起こしやすくなる場合があります。</p>	<p>21</p> 	
		<p>SNSで情報を発信する際には、「絶対安全は難しく、リスクには段階がある」ということを理解しておきましょう。特に、状況によって、写真を投稿する際にも安全だと思っているものがリスクのある情報に変わってしまう場合があります。ネットだからといって、行動が大胆になってしまっていないか確認しましょう。</p>	<p>22</p> 	
10分	<p>3. 考えてみよう② 犯罪のリスクの判断</p>	<p>次は、「考えてみよう②犯罪のリスクの判断」です。みなさんはSNSでの情報発信の際の犯罪のリスクを適切に判断できるでしょうか。</p>	<p>23</p> 	
	<p>罪に問われるもの、罪に問われないものを判断できるかな？</p>	<p>次の内容について、刑事罰として罪になるかならないかを判断し、ワークシートに○をつけてみましょう。また、罪になるに○をつけた場合には、どの程度の罰則があるかを予想し、「罰則」の欄に記入してみましょう。</p> <p>では解答を出します。</p>	<p>24</p> 	<p>○ワークシート</p> <p>■個人で考える時間を1分程度とする。 ■グループで共有させる。 →生徒に発表させても良い。</p>

時間	学習活動	台本	スライド・番号	○準備物 ■教師の支援
		<p>①、③、④は罪に問われる可能性があります。 特に、下着や裸の写真を扱うことで、罪になる可能性が高くなります。</p>	<p>25</p> 	
		<p>罰則の根拠となる条例・法律としては、和歌山県少年健全育成条例や児童ポルノ禁止法が挙げられます。 こうした規則を知っておくことで、知らず知らずのうちに加害者になることを防ぐだけではなく、被害にあった際に通報する根拠となります。</p>	<p>26</p> 	
		<p>実際に和歌山県でこのような事例が起きています。</p> <p>(※事例を読む。)</p> <p>ここでのポイントは、被害にあった生徒がなぜ写真を送ってしまったかということです。 はじめは、「信用できる人」と思っていたはずが、後から思っている人じゃなかったという状況になっています。 アイスブレイクで、嘘を見抜く難しさを考えたように、SNS では特に注意が必要です。</p>	<p>27</p> 	▲省略可
		<p>このように SNS での情報発信において、悪質なものは法律や条例で罰せられる可能性があるため、自分の身を守るためにも、どこからが犯罪になるか知っておくようにしましょう。</p>	<p>28</p> 	▲省略可
15分	<p>4. 考えてみよう③ 写真を要求されたら？</p> <p>事例で考えてみよう</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>雑誌の記者から、水着の写真を要求されたら、どのように返信するかな？</p> </div>	<p>最後に、「考えてみよう③写真を要求されたら？」です。 みなさんは実際に SNS で写真を要求されたら、どのように対応するでしょうか。こちらも先ほどのゆうなさんの事例で考えてみましょう。</p> <p>(※スライド内の内容を読み上げる。)</p>	<p>29</p> 	
		<p>(※スライド内の内容を読み上げる。)</p>	<p>30</p> 	
		<p>(※スライド内の内容を読み上げる。)</p>	<p>31</p> 	

時間	学習活動	台本	スライド・番号	○準備物 ■教師の支援
		(※スライド内の内容を読み上げる。)	32 	
		(※スライド内の内容を読み上げる。)	33 	
		(※スライド内の内容を読み上げる。)	34 	
		(※スライド内の内容を読み上げる。)	35 	
		(※スライド内の内容を読み上げる。)	36 	
		このとき、みなさんがゆうなさんの立場なら、どのように返信をしますか。ワークシートの吹き出しに記入してみましょう。もし、写真を送るという場合には、どのような写真を送るか記入してみましょう。	37 	○ワークシート ■個人で考える時間を1分程度とる。 ■グループで共有させる。 →生徒に発表させても良い。
		SNSでは、相手に悪意があるかを判断することが難しくなります。メッセージのやり取りの段階では、判断が難しい場合でも、もしも「悪意があったとき」に対応できるかが大切です。本名が知られていないから「写真くらい」大丈夫だろう、マスクで顔が隠れていれば大丈夫だろうと考えていたとしても、もしも、後から自分の名前や通っている学校がバレてしまったらリスクが大きくなる危険性があります。送るときに「大丈夫な写真」ではなく、後から自分の情報がわかってしまったときの危険性も意識して、対応するようにしましょう。	38 	

時間	学習活動	台本	スライド・番号	○準備物 ■教師の支援
		<p>写真なら大丈夫と考える場合もあるかもしれませんが、何気なく送った写真が「脅し」や「更なる要求の道具」として使われる危険性があります。</p> <p>水着の写真や学生証の写真など、それ自身が安全と考えるのではなく、後からリスクにつながる可能性も考えておきましょう。</p>	<p>39</p> 	<p>▲省略可</p>
		<p>もしも、SNS 上で脅しや要求をされた場合に、覚えておいてもらいたい対応方法があります。</p> <p>それは、「きっぱりと断り、相談すること」です。</p>	<p>40</p> 	
		<p>皆さんは、もし送りたくない写真を要求されたら、どのように断るでしょうか。</p> <p>(※少し時間をとって考えさせる。)</p> <p>最強の断り方として、例えばこのような断り方があります。</p> <p>みなさんも、相手が嫌がる断り方や対応方法を考えておくことが必要です。</p> <p>また、スクリーンショットなどで証拠を残すことも大切です。</p>	<p>41</p> 	<p>■グループで考えさせる。</p>
		<p>また、誰かに相談するというのも重要です。</p> <p>相談することに気が進まないという人もいますが、例えば相談することにはこのようなメリットがあります。</p>	<p>42</p> 	<p>▲省略可</p>
		<p>誰かに相談することも大切です。</p> <p>みなさんは困ったときに誰かに相談するでしょうか。</p> <p>友達や家族、学校の先生など思い浮かぶかもしれませんが、警察に相談することも選択肢の中に入れてください。</p> <p>さすがに警察には相談しにくいという人も、相談する一つの目安として、裸や下着の写真を送ると言われたら、警察に相談することを検討しましょう。</p> <p>これは、仲の良い相手だから、好きな人だからではなく、法律に違反する場合があります。</p> <p>ぜひこうした場合には、警察に相談するようにしましょう。</p>	<p>43</p> 	

時間	学習活動	台本	スライド・番号	○準備物 ■教師の支援
		<p>相談することで、「SNS でやりとりしていたことを怒られるかも・・・」という人もいるかもしれません。</p> <p>しかし、相談しないことで被害が拡大したり、加害者を罪に問えなくなること、どちらがダメージが大きいですか。</p> <p>また、相談は被害にあった後だけではなく、「あいそう」と感じたら、誰かに伝えるようにしましょう。</p> <p>例えば、「自分の弱みに対して脅しや強制を要求してきたら」「友達や家族が被害にあいそうな場面を目撃したら」といった場面も含まれます。</p>	<p>44</p> 	
		<p>写真を要求される場合には、脅しの道具として情報を使われる恐れがあり、そのためにもきっぱりと断る方法や相談する相手・タイミングを確認しておく必要があることを覚えておきましょう。</p>	<p>45</p> 	
5分	5. まとめ	<p>最後に、安心・安全な「SNS による社会への発信」に向けて、授業のまとめです。</p>	<p>46</p> 	<p>○ワークシート ▲省略可（省略時には、【まとめ無し】のワークシートを使用） →生徒自身に授業の感想や今後のSNSの使い方を発表させ、まとめとする方法でも良い。</p>
		<p>今日の授業では、大きく4つのリスクについて確認をしました。</p> <p>リスク①は、「相手の嘘や悪意を見抜くことが難しい」です。ネットでは特に難しくなることを認識しておきましょう。</p> <p>リスク②は、「絶対安全は難しく、リスクには段階がある」です。状況によるリスクの変化を判断することが大切です。</p> <p>リスク③は、「悪質なものは法律や条例で罰せられる可能性がある」です。どこからが犯罪になるかを知識として持つておくようにしましょう。</p> <p>リスク④は、「脅しの道具として情報を使われる恐れがある」です。きっぱりと断り、誰かに相談するという対応をとるようにしましょう。</p> <p>SNS で自分の社会を広げていくために、こうした点を意識するようにしましょう。</p>	<p>47</p> 	<p>○ワークシート ▲省略可</p>
	オプション	<p>今日の授業をふまえて、これからのスマートフォンの使い方について自分の考えを記入してみましょう。</p>	<p>48</p> 	<p>○ワークシート ▲省略可</p>

memo

A large rounded rectangular box with a solid black border, containing 20 horizontal dotted lines for writing. The lines are evenly spaced and extend across the width of the box.

memo

A large rectangular area with rounded corners, containing 20 horizontal dotted lines for writing. The lines are evenly spaced and extend across the width of the page.

SNSによる社会への発信を考えよう

ネットのリスクから自分を守る方法は？

講師用ガイドブック

令和5年3月17日 初版発行

制 作 和歌山県警察本部
和歌山県教育委員会
一般財団法人LINEみらい財団
常葉大学教育学部 講師 酒井郷平
アラサキデザインスタジオ
